

慶蔵院寺報

# 公孫樹

2026年1月発行

第168号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町1211

TEL 0596 (22) 3726

明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願いいたします。



山村御流の生け花

画 山寄淑子

一月二十四日は、今年最初の身代地蔵の日です。

ぜひ、お参りください

十二月二十四日、地蔵堂の開帳の日には、地蔵講メンバー六名に加えて十八名の参加がありました。十二時から順次、「銀杏炊き込みご飯のおにぎり」と「豚汁」を食べていただきました。

午後一時から、幸森如さんからのお話。「私の言うようにやってみてください」とセルフセラピー（この表現が適切かどうか分かりませんが…）の実践です。「左手の上に重ねた右手で、やさしく、思いをもって、ゆっくりとなでてみてください。そして左手におこる変化を自分で確かめてみてください」。

すぐに反応が有りました。十月から参加されている山本さん。「手のしわが消えました。つるつるになってきました」と。

幸森如さんは、言葉を、素直に受け入れる心を大切にされているようです。このことは、健康になりたい…、もっとよくなりた…という、受け手の気持ちと、助けて上げたいという幸森如さんとの通い合いをうみだし、不離仏のように離れ離れにならないことで、自己治癒力が発揮されていくように思えます。

一時半からは、地蔵講の皆さんの「西国三十三番」の御詠歌がはじまり、御詠歌をいただきながら、お加持は、四時過ぎまで続きました。

参加者の一人から、「主人を亡くしてから身体の不調が続いている」との訴えがありました。幸森如さんが受け止められ、語られる言葉に、彼女は涙を流され「また来たい」と笑顔で帰っていかれたとのこと。また痛みに悩む方には、「まず笑顔になって、心を軽くするようにしましょう」と勧められ、お加持がすむにつれて「顔色が明るくなってきた」と参加者が口々に応援していたといいます。参加者みんなできくりあげる場のエネルギーのようなものも、大きな力となっているみたいです。

一月二十四日、ぜひお加持の体験をされるよう、お勧めします。

お葬儀ができた場合は、何時でもかまいません、最初に、慶蔵院にご連絡ください。電話 22-3726

# 1月の行事予定



7日(水)	写経会	午前 10 時～ 本堂にて
8日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前 10 時～11 時半 午後 1 時半～3 時 一会館にて 参加費 1 回 1000 円
12日(月)	華道「山村御流」教室 講師 小森清真先生	午後 1 時半～ 参加費 2000 円+花代
14日(水)	・羊毛フェルト教室 講師 monmo 先生 ・男性詠唱隊 ・落語会「いちご亭」	午後 1 時～3 時 一会館にて 参加費 1500 円 午後 1 時半～3 時 本堂にて 午後 7 時～ 一会館にて
21日(水)	健康教室 講師 馬場久美子先生	午後 1 時～3 時 本堂にて 参加費 500 円
24日(土)	祈願とお加持・地藏堂開帳	午前8時頃 祈願は 10 時～、お加持は 1 時～3 時
28日(水)	戦没者慰霊・平和の鐘 地藏講	午前8時頃 午後 1 時半～
9・23日 (金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生	午後 7 時～子ども茶道教室 午後 7 時半～大人茶道教室 参加費 大人 500 円 一会館にて

## 墨子を知っていますか？

### 慶蔵院豆知識 part2

32



中国古代の思想家で、生年生地没年も定かでない人物ですが、紀元前五世紀後半から前四世紀前半、春秋戦国時代に活躍した人で、孔子や老子、孫子と同時代の人です。お釈迦様もほぼ同時代に活躍されました。

さて何を訴えたかという点、「兼愛」と「非政」です。兼愛とは、自己と同じように他者を愛すべきことで、我と人の分別を去って、広く人のためを考える博愛主義だと言えます。「汝の敵を愛せよ」というキリストの教えにも似ています。晨朝の礼拝儀「至心に発願す」の「外は怨親平等に（恨みのある人や親しい人の分け隔てなく）同体大悲（おもしろい）の愛を以て他に対し得らるるやうに」にも通ずるところがあると思います。

次に非政とは、侵略戦争をするなどと言うことで、すべての人間が全体として繁栄していこうとする利を考えて、他国を攻撃することを排斥する平和論を唱えました。一人の人間を殺害すると一つの刑罰が下され、十人を殺したら十の刑罰が下され、百人を殺したら百の刑罰が下されるが、他国を攻めて何十万、何百万の人を殺しても刑罰が下されず、かえって栄誉であることに言われる。これはどう考えてもおかしいではないかと。人類は、果たしていつこの矛盾に目覚めるのでしょうか。誰も罰することができないなら、みんなで結集して、神仏に天誅を加えてもらおうよう、お祈りしようではありませんか。

一句「世の中は 地獄の上の 花見かな」 一茶

（文 麻畑公生）

## 住職の健康回復への道のり(47)

十二月十七日に行った二十四時間ホルター心電図結果が出ました。前回と比べると、房室伝導障害が「なし」から「1度」と後退していたのです。四年前は、いつ心臓麻痺がおこるかもしれないという数値、「3高度」だったのですから、良くなっているのですが、今回、なぜ後退することになったのか自省しなければなりません。

石垣院長から、こんな言葉をいただきました。

「腰の痛みも、右足の痛みによる歩行困難も、すて血流が悪くなった結果でした。その時には、腰や足の部分だけの血流の滞りでなく、心臓の血流も悪くなっているのです。その後遺症が今回の検査結果となって現れてきたといえます。身体は全部つながっているのです。疲れを残さず、睡眠をよくするようにしなければなりません。新たな教訓としてください」と。

前回、この欄で紹介したように、八月末の華展での二日間立ちっぱなしによる腰痛、秋の銀杏洗い、本堂での五針縫うケガ、二週間続いた歩行困難等、四力月の積み重ねが、心臓に負担をかけていたことがわかりました。血行を良くして痛みを取ることをだけを考えて来ましたが、今後は、身体全体に目を配るように気をつけて精進努力してゆきます。

夫婦岩二人で拝む初日の出

奥田悦生

(「知恩」誌一月号「柳壇」に掲載)

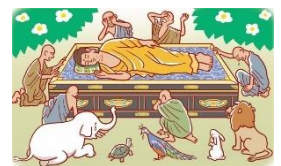
涅槃会、お参りください

二月十五日(日) 午後一時から

慶蔵院本堂にて

法話 安井隆同上人

茨木市銭原 乗雲寺住職



昨年のお話は「父母恩重経」の前半のお話をしておきました。とても好評で笑いも涙もいっぱいいただきました。今年もその続きをご期待下さい。  
休憩では「お餅入りぜんざい」を用意させていただきます。



12月21日、慶蔵院で日本語を勉強したピンミン君、アインちゃん夫妻が訪問してくれました。

落語会「いちご亭」

一月一四日(水) 午後七時〜慶蔵院「一会館」にて

出演 法話 慶蔵院住職 紙切り 安楽亭小東風

落語 南遊亭栄歌 安楽亭東風

安楽亭小東風(小学三年・晋之介君)の紙切りも好評です。お楽しみに!!



一月の掲示板

多くを語らず、  
心静まる一言を

お釈迦様の言葉を、自由訳して、自分はこのように受け止めて、これからの自分の糧にしたいと思い、いただきました。

自分の主張を、何とか届けたいとどんどん語り説明しようとする。独りよがりの言葉となってしまう。自戒をこめていただいた「心静まる一言」は、自分の心を静める言葉でなければならぬ。よく咀嚼された言葉にならないと思う。

ご寄付をありがとうございます

ございました!!



十二月一日に中西幸一さんを通じて、三木徹さんグループのフリーマーケット収益金 三九七〇円をご寄付いただきました。身代地蔵さんへの寄付とさせていただきます。





―ある檀信徒の

お加持体験―

吉野の山中で出会った山伏に

お話をかけられた。

「腰が悪そうですわ。お加持させて下さい」と。

手を合わせひざまづく私の背中に

何かしてくれていた。

不思議も聞こえた。

何としてくれたのかはわからない。

言えることは、

以来、腰痛を感じたことはない

ということだけ……。

格也

二十四日、「ご祈祷にいられた一人の方の「願いごと」は「手首の痛みを取って欲しい」というものでした。

祈祷を終え「銀杏名号」をお渡ししながら、「手首はどのよう

に痛いのですか」と声をかけました。「上下するとピリッ

と痛みが走ります」とのこと。「ちよつと触りますよ」と手

首から親指の付け根を指で探っていききました。

以前、いくつかの体験があります。長靴を履いて長い時間

畑で仕事をしたところ、アキレス腱が痛くなり、翌日の夜に

なっても痛みが消えません。台所の椅子に座って、アキレス

腱から足の裏を指先で押さえていききました。親指の付け根の

あたりに指先かとどいたとき、激痛がはりました。そのと

き、ここを押し続けて、この痛みが取れた時、アキレス腱の

痛みは取れると思ったのです。五分間ほど、痛みに堪えて押

し続け、その痛みが消えた時、はたしてアキレスけんの痛み

も同時に取れていたのです。

もう一つの事例です。てらこや塾の卒業生で、高校の陸上

部に入っていた男子生徒が、「足の裏に痛みが出て、走るこ

とができない」と訴えてきました。わからないままに「手当

をしました。三回目の時です。土踏まずの横から指を入れま

した。私の指先に何か「ツラツラ」のようなものを感じ取れた

のです。「これ痛いか」と聞くと「痛い」との返事。「よし、

我慢しとれ」と私はその「ツラツラ」を指先で押し続けました。

「パシッ」。そんな音がでたわけではありません。しかし私

にはそう感じたのです。そのとき彼の足裏の痛みは消えて

いたのです。

さて地藏堂での続きです。思った通り、指先に突起を感じ

ました。「痛いですよ。我慢してください。」「指先から突起

が消えたと感じ、」「どうですか」と尋ねると「痛くありません

」との返事が返ってきました。これは幸森如さんのお加持

とは違いますが、祈祷の中にお加持もあり、お加持の中に祈

祷もあるように思えてきます。